

持続可能な未来を創るために ～「エシカル」な視点から～

一般社団法人エシカル協会代表理事 すえよしりか 末吉里花



（一社）エシカル協会は2022年5月『エシカル白書 2022-2023』を刊行しました。エシカルに関する白書として日本初となる本書をもとに、代表理事の末吉里花さんに「みちしるべ」読者の先生方に向けて書き下ろしていただきました。



「エシカル」というものさし

気候変動、感染症パンデミック、大規模な軍事衝突。この号が届く頃、ウクライナは、世界は、どうなっているのでしょうか。次々と失われる命や国外へ逃れゆく人々の姿を見て、何もできない無力感や苛立ちに溺れそうになっています。人類はいまだかつて経験したことがない困難を迎えています。暗いトンネルの中を進むような日々、何を頼りに生きていけばいいのか、どんな暮らし方を選んでいけば、世界も私たちもよりよい方向に向かうのか。大人だけでなく、子どもたちもとまどっています。一方で、多くの人たちがつまづきながらも、希望ある新たな世界の実現に向けて必死に歩み始めています。その新たな未来を創るために必要なのが「エシカル」というものさしです。これから始まる新たな時代を生きるために欠かせないものさしです。変化のチャンスを生み、暗闇を抜ける道を照らすトーチとなり得ます。「エシカル」とは、直訳すると「倫理的な」という意味で、法律の縛りはないけれども多くの人が正しいと思うこと、また人間が持つ良心から発生した社会的規範を意味します。ここで言う「エシカル」とは、人や動物を含むすべての生き物、地球環境、社会や地域に配慮した考え方や行動のことを指します。昔から日本人が大切にしてきた「おもいやり」や「おたがいさま」、「足を知る」といった精神はエシカルの理念に通底し、高い親和性があります。



身近なものから想像を

2021年4月から教育出版の中学社会や中学国語の教科

書にも、「エシカル」が取り上げられました。

エシカルとは「エいきょうを シっかりと カんがえる」ということです。当たり前のように営んできた暮らしの裏側を想像し、見えないものや他者にどんな影響があるのかを考え、行動するということです。「エシカル」な消費とは、人や地球環境に配慮しているだけでなく、背景がわかる製品を購入することであって、いわば「顔の見える消費」とも言えます。今、世界の緊急課題である、貧困・人権・気候変動・生物多様性の喪失という4つの課題を同時に解決していくために、「エシカル」という概念が有効だと言われており、持続可能な開発目標（以下、SDGs）達成のためにも、「エシカル」なアプローチは必要不可欠です。



SDGs の進捗

SDGs が国連で採択されて7年が経とうとしています。いよいよ折り返しのタイミングを迎えており、SDGs とは何か、なぜ必要なのかを議論する段階は終わり、行動に移していかなければいけない後半が待っています。学校教育の中でも SDGs が教えられるようになりましたが、実際のところ目標の達成はどこまで進んでいるのでしょうか。国連が2021年7月に発表した『持続可能な開発目標報告 2021』は、SDGs の17目標を達成すべく採択された指標の国際的な進捗を報告しています。同報告書では、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）のパンデミックが世界中の人々の生活に大きな混乱をもたらし、遅々としていた SDGs 目標達成の進捗が停滞または後退の道をたどっている現状を明らかにしています。事実、国内および各国間の不平等が拡大しており、2020年には新たに1億1,900万人～1億2,400万人が貧困状態に押し戻されました。パンデミックによる経済減速と人間活動の停滞は、二酸化炭素排出量を一時的に減少させましたが、結果的に気候危機のペースが落ちる効果はありませんでした。温室効果ガス

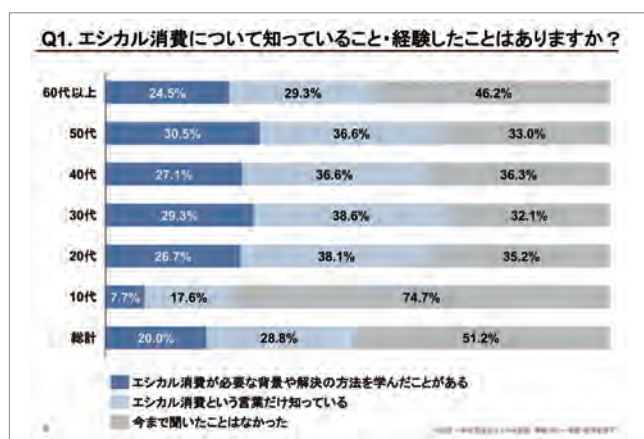
の濃度は上昇し続けており、生物多様性の喪失や環境汚染は深刻化しています。社会の前提や価値観が大きく変容した世界においては、パンデミックからの復興を契機に、保健と教育の改善、不平等の是正と経済回復を掲げながらも、気候変動に対処し、自然資源を保持する持続可能な社会の再構築に舵を切ることが求められています。そのためには、各国政府や国際機関、企業のみならず、私たち消費者が連携をし、同じ目標に向かう必要があります。誰かがやってくれる、という気持ちではなく、一人一人が危機の中で地球市民としてどのように行動し、生活していくかが問われています。



日本における エシカル消費動向調査について

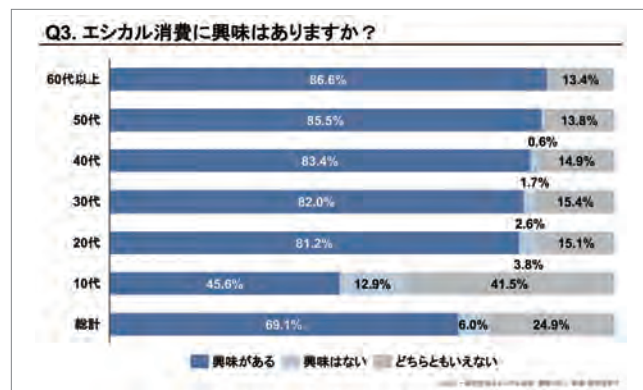
ここ最近、日本でも SDGs の取り組みが加速しているのにもかかわらず、後退の道をたどっていることを知り、愕然とした方もいらっしゃるのではないのでしょうか。実はエシカル消費に関して言えば、この数年で認知度が上がり、日本の消費者が買い物をするときの価値観が変わってきています。ここからは、私たちエシカル協会が、エシカル消費の動向の把握を目的に 2019 年 4 月～2021 年 9 月の期間において実施した、エシカル消費に関する一般消費者アンケートの分析結果についてお伝えいたします。

今回のアンケートでは、10～60 代以上の男女 6,040 人から回答を収集し、10 代の回答者が最も多い結果となりました。回答者の居住地は、47 都道府県という結果となりました。

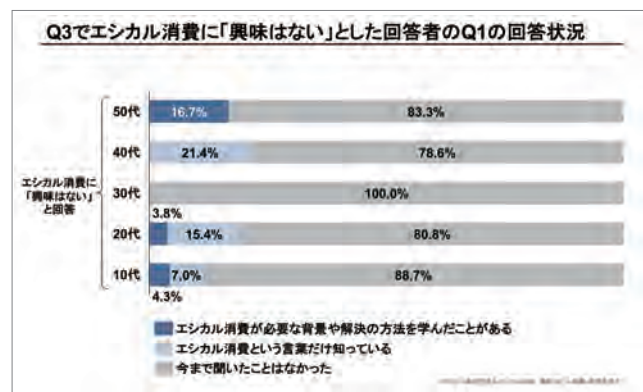


Q1 の「エシカル消費について知っていること、経験したことはありますか？」という質問に対し、全体の約 5 割がエシカル消費を「知っている」と回答しました。その中でも「エシカル消費が必要な背景や解決の方法を学んだことがある」と回答した人、すなわち意味まで理解している人は全体の 2 割でした。年代別のエシカル消費の認知度は、20 代以上では 5 割を超える一方で、10 代の認知度は、3

割弱にとどまっています。昨今教育現場において、教育出版のみならず教材開発が進み、エシカル消費に関する啓発が積極的に行われていますが、上記の結果からは若年層に対する認知がいまだ十分に高まっていないと読み取ることができます。特に本アンケート回答者の 10 代、すなわち現在高校生、大学生に該当する世代は、教育課程へのエシカル関連カリキュラムの導入において過渡期に該当し、学ぶ機会が十分に整備されていなかったと考えられます。加えて、学生は社会生活の中において「エシカル消費」に関する情報を見聞きする機会が限られていることも認知の低さにつながっているのではないのでしょうか。



Q3 の「エシカル消費に興味はありますか？」という質問には、全体の 7 割が「興味がある」と回答しました。年代別のエシカル消費に関する興味では、20～60 代以上の約 8 割が「興味がある」と回答しています。一方で、10 代の約 13% は「興味はない」と回答しており、他の年代に比べて特に割合が高くなっています。実はこの結果が出た時、私たちは非常にショックを受けました。メディアでも Z 世代と呼ばれる若者はエシカル消費に対する意識が高い、と取り上げられることも多く、私たちも活動を通じて Z 世代はエシカル消費に関心を持っており、実際に行動に移しているという肌感覚があったからです。



しかし、さらにアンケートを紐解いていくと、Q3 でエシカル消費に「興味はない」と回答した 10 代の約 9 割は、Q1 においてエシカル消費という言葉に「今まで聞いたことがなかった」と回答しています。このことから、認知普及の不足がエシカル消費への興味の低さに直結していると

言えます。エシカル消費の認知度や興味、いずれにおいても10代の回答は他の年代よりも低く、十分な情報とエシカルな商品との接点がいまだ足りないことが要因として考えられます。ようやくエシカル消費の教科書への掲載がなされた今、認知にとどまらない、エシカル消費への興味や実践を引き出すことが求められます。それには、教員をはじめとする現場指導者の生活視点での実践的な教育も不可欠となるでしょう。



授業の中での「エシカル」の学び

エシカル消費は子どもから大人までどんな人にとって、SDGsが掲げる17目標を達成するために最も身近で、毎日の暮らしの中で実践できる手段です。12番目の「つくる責任 つかう責任」の達成に寄与できるだけでなく、13番目の「気候変動に具体的な対策を」という目標をはじめとする、いくつものゴールを成し遂げるためにも有効です。消費といっても買い物をしてお金を使う、という意味だけに留まらず、フードロスや海洋プラスチック、ゴミ問題、洋服の廃棄問題といったテーマについて、授業の中で話し合い、自分たちの「エいきょうを シっかりと カんがえろ」ことも、課題を解決するためのエシカルなアプローチの一步となります。

相模女子大学中学部の堤真美先生は、中学1年生に「自分の生活とSDGsとを結びつけて考える」ことをねらいとした授業の実践をするにあたり、拙著の『『エシカル』に生きよう』を教材として使ってくださいました。3つの実践ポイントとして、①社会課題は、自分の行動の中にあることを知る。②教室での学びを、自分の生活に結びつける（実は知らないうちに「エシカル」な消費行動をしていたことを知る生徒も出てきたようで、日常生活の中に、課題解決に向けた行動があることを知る大切さを学ぶ。）。③国語の時間にSDGsを学ぶ意味を考える、この3つをあげています。このうち、特に③は、教育出版の中学国語の教科書に「エシカル」が掲載された意味を生徒も教員も考える大切なポイントです。堤先生は、③のプロセスを経て、自分の思いを言葉にすることで、単なる心がけにとどまらず、自分の考えや行動が意味をもつようになることの大切さを生徒たちに伝えました。

実は「エシカル」の学びの中で一番大切なのは、一人一人が地球に生きる一員として、ホリスティック（全体的、包括的）な視点を持ちながら想像力をはたらかせて、見えないものを見ようとする力を育むことです。そして、たったひとつしかない地球で、人間や他の生き物が暮らし続けられる環境を守るために、見えないものや他者へ思いをは

せ、一人一人が社会の中で自らの影響を考えながら分かち合う心を持つことです。



ホリスティックな視点を持つ

ジャーナリストの国谷裕子さんも『エシカル白書 2022-2023』の中で「ホリスティック」の重要性を訴えています。背景には「確証バイアス」の広がりがあります。確証バイアスとは、自分の主張を支持する情報だけを意図的に選択し、その結果、自分の主張が正しいと思い込んでしまうことを指します。SNSが発達した現代ではこのバイアスに陥りやすくなったのではないのでしょうか。国谷さんはエシカルを広めていくために、ホリスティックな視点を持つことが重要だと言い切っています。その視点を持って、「自分とは異なる考えを持った情報や人にも意図的にアクセスすること」を勧めています。（国谷さんは、教育出版『伝え合う言葉 中学国語3』『問いかける言葉』においても「確証バイアス」についてふれています。）

子どもたちがより広い視野を持って物事と向き合っているよう、授業の中で学びを完結するのではなく、いかに社会と結びつけるかが重要です。自分の暮らしがどう世界とつながっているのか。日本に暮らす私たちは世界の一部であり、影響を与え合っていることはウクライナ情勢ひとつとってもひしひしと感ずることが出来ます。つながりを知った先、自分の足元でどんな行動を起こせばいいのか、正解はありません。エシカルとは、生かしてもらっているこの地球の未来や、暮らしを営むうえで関わりがある社会を、公平で公正なものにするために何ができるのか。それを自分たちで考えていこうという話ではないのでしょうか。その意味で、エシカルに生きるとは「人間として、この地球上でどう生きていくのか」を自分自身に問い、行動することと言えるかもしれません。今、エシカルな世界を作るために、大衆を率いる革命家は必要ありません。それぞれが変化を促す行動者であり、未来を作るリーダーだからです。1人の100歩より100人の1歩が世界を変える力を持っています。教員である皆さまが生徒たちの良き伴走者となり、エシカルな革命の物語を一緒に紡いでいってほしいです。

【参考文献】

『エシカル白書 2022-2023』一般社団法人エシカル協会編（山川出版社）

国際連合広報センター 「『持続可能な開発目標（SDGs）報告 2021』発表に関するプレスリリース（日本語訳）」

https://www.unic.or.jp/news_press/features_backgrounders/42423/



『教育情報誌 学びのチカラ e-na!! vol.2（中学校版）』『言葉の力で社会とつながる～国語の時間に学ぶSDGs～』堤真美（教育出版）

持続可能な未来を考えるヒント ——デジタル教科書の活用



各学年に用意されている総合単元（SDGs）は、持続可能な社会の実現に向けて、生徒一人一人が課題を発見したり共有したりすることによって、社会の一員として今後自分はどう行動していくかを考えることを目標としています。

1年生の「持続可能な未来を創るために——人の暮らし方を考える」では、「持続可能な社会」という考え方を知り、日常生活の中に社会の課題を見だしていきます。本教材は、「SDGsの紹介」「プロローグ——〈学びの旅へ〉」「『エシカル』に生きよう」の三部で構成され、そこに「始め・次・最後」の3つの問いが織り込まれています。デジタル教科書では、それぞれの問いに学習を進めるためのヒントを準備しました（画面1）。

「SDGsの紹介」では、導入として NHK for School の動画を活用し、SDGs（持続可能な開発目標）とは何かについて学んでいきます。

『『エシカル』に生きよう』では、「エシカル消費」の考え方をより理解するために、筆者である末吉里花さんのメッセージ動画を収録しています（画面2）。作品を読むだけでなく、実際に筆者の声を聞くことによって、遠く離れた世界の課題が、身近な日常生活とつながっていることを感じるることができます。

「次の『問い』」の身のまわりの「ごみ」について考えるとき、イメージがわからなかったり、ごみ箱に捨てるような「ごみ」を思い浮かべたりする生徒が多いかもしれません。ここでは、「ごみ」を思い浮かべるだけにとどまらず、SDGsを振り返り、食品ロスの課題や、プラスチックごみによる環境破壊など、「ごみ」を捨てた先のことまで意識をつなげるために、問いに対するヒントとして、イメージが浮かぶような写真資料を提示します（画面3）。



▲画面1
「持続可能な未来を創るために
——人の暮らし方を考える」



▲画面2 「筆者メッセージ動画」末吉里花さん



▲画面3 「次の『問い』」のヒント

中学国語通信 みちしるべ Vol.3
2022（令和4）年7月発行

教育出版株式会社 編集局 国語科

〒135-0063
東京都江東区有明3-4-10 TFT ビル西館
TEL：03-5579-6278（代表）



詳細はこちら！

「中高生日本語研究コンテスト」が初開催！！
中高生からの応募をお待ちしています。

